

## 市長とPTA連合協議会役員のタウンミーティング 議事概要

開催日時：11月18日（木）16時～17時30分

開催場所：秘書課応接室

出席者：〈豊中市PTA連合協議会〉（以下、「連P」という）

吉田会長（庄内さくら）、仙崎会長代行（豊島）、伊関会計（桜塚）、  
後藤生活安全委員長（13中）、水野生活安全副委員長（刀根山）、  
森副会長（8中）

〈豊中市〉

長内市長、岩元教育長、大澤社会教育課長、荒井課長補佐、佐々本主査、  
岡田主査（秘書課）

### 1. 会長あいさつ

吉田連P会長から、挨拶があった。

併せて、市長はじめ秘書課と教育委員会に対して、今回もタウンミーティング形式での開催や日時の調整をしていただいたことについて、御礼があった。

長内市長から、連P役員様や学校PTA様の活躍ぶりはリアルの場面はもちろん、SNSでも見聞きしているので、改めてそのお話をできる今回の場を大変楽しみにしていた旨、挨拶があった。

### 2. 役員の自己紹介

後藤生活安全委員長から、13中PTAの活動について、多様な進路を見つけようプロジェクト（全生徒に興味のある職業アンケートを実施し、人気職種についてインタビュー等の動画を作成し給食時間に視聴してもらった。将来の夢や希望について考える良い機会となった。）を立ち上げ、黙食を実施しているお昼の時間を豊かな時間に変えた有意義な活動を行った旨、挨拶があった。

伊関会計から、桜塚小PTAについて、昨今のPTAへのマイナスイメージを払拭し役員がまず楽しく活動できるよう「誰でも参加しやすいPTA」をスローガンに前向きに活動している。9月に校庭等を使ってキャンドルナイトを実施し、子ども達を笑顔にすることができ、多くの保護者や地域ボランティア様から好評の声を頂いた旨、挨拶があった。

長内市長から、二つの活動に感銘を受け、コロナ禍で奪われた子ども達の笑顔をどんどん取り戻していきたい旨、発言があった。

水野生活安全副委員長から、刀根山小PTAの活動について、コロナ禍でイベントを開催しにくい状況の中、PTA活動の負担軽減や集団登校等の改善を行った。今後、バルーンリリース等の活動を計画しており、子ども達の思い出作りに役立ちたい旨、挨拶があった。

長内市長から、コロナ禍の中、PTA活動に苦慮されている様子を切実に思う旨、

発言があった。

森副会長から、8中PTA活動について、コロナ禍でイベントを開催しにくい状況の中、「PTA見える化」活動を行った。冊子を作成しPTA内の行事や情報を会員に広く共有した旨、挨拶があった。

併せて、学校のトイレについて、老朽化から子ども達は使用を苦労している旨、発言があった。

岩元教育長から、予算的な課題はあるが、学校トイレ改修のスピード感を持って対応するよう引き続き努力する旨、発言があった。

仙崎会長代行から、豊島小PTA活動について、逃走中イベント等で子どもも大人も楽しく活発な活動を行っている旨、挨拶があった。

併せて、中部ブロック内の活動について、コロナ禍で様々な理由はあると思うが、学校によってPTA活動への温度差があり、イベント等の大きな活動の実施状況が学校によって違う旨、発言があった。

吉田会長から、ほとんどの学校では学校長とPTA役員が密に話し合い、円滑にPTA活動が行われているが、良い関係性が築けていない学校があると聞いている旨、発言があった。

仙崎会長代行から、学校備品等について、PTA予算での購入を依頼しないよう教育委員会が校長会議で通告いただいたことで学校PTAの負担が軽減されている。その事例のように、学校間での共通認識をPTA活動の実施についても生かしてほしい旨、発言があった。

長内市長から、特色ある学校作りは大切であり、PTA活動等の実施については学校長判断で決定することではあるが、地域や学校行事等の活動の学校間格差を是正するために、教育委員会からの情報共有等していく必要がある旨、発言があった。

併せて、PTA活動でのコロナ対策や注意事項について、保健所の知見等も参考にしていきたい旨、発言があった。

吉田会長から、庄内さくら学園PTAの活動について、各学校PTAで苦慮している役員選出の際にはPTAへの思い等を聞く率直な内容のアンケートを実施し、その回答を基に依頼しているので円滑な役員決めを行っている。また、広報委員会では心温まる見る側の興味を引くPTA広報紙作りに励んでいるが、この度、日本PTA協議会主催の広報紙コンクールで日本PTA協議会会長賞を受賞した旨、発言があった。

長内市長から、嬉しいサプライズで素晴らしいと思う旨、発言があった。

岩元教育長から、その表彰式の様子を情報共有いただきたい旨、発言があった。  
(後日、11月19日に東京で開催された表彰式の様子を市HP「教育委員会トピックス」にレイアウト賞を受賞した第十一中学校PTAとともに掲載された。)

### 3. 市長から質問

長内市長から、2学期の開始について、保健所の見解や感染者数の推移等を鑑み豊中市では予定通りの日程で夏休みを延長せず始業式を行ったが、保護者の皆様はどう思われたか質問があった。

吉田会長から、連Pの西田顧問の周りの多くの保護者から、予定通りの2学期の開始に賛同の声が挙がっていた旨、発言があった。

後藤生活安全委員長から、当初の緊急事態宣言時の長い学校休業で家庭での生活を考えると、学校で学習や運動の時間や友達との時間を過ごすことが子どもにとって幸せで有意義なものになると思う旨、発言があった。

吉田会長から、即時性が求められるコロナの対応に関しては常々から道上教育監をはじめとした教育委員会から連Pに情報提供を頂き、その内容を各学校PTAに情報共有している。また、日々の連P役員会や連P活動の議事概要や情報を事務局から各学校PTAに発信して頂いており、様々な面で教育委員会と連Pが密に連携している。その流れもあって、反対の声はほとんど無かった旨、発言があった。

長内市長から、教育委員会と保護者の連絡や情報共有を円滑に行われていることを誇らしく思う旨、発言があった。

長内市長から、コロナの感染予防の緊張感が続くことから、心身の萎縮の問題が昨今言われているが、子どもの様子について、質問があった。

伊関会計から、朝のあいさつ運動を担当しているが、子ども達に明るい様子が戻ってきていると思う旨、発言があった。

水野生活安全副委員長から、小中学校では学校から教育関連施設や相談窓口等の情報が届いているが、未就学児の保護者からの不安感は大きく、市の相談窓口等の情報が届きにくい旨、発言があった。

森副会長から、コロナ生活に慣れたせいか、子ども達の積極性が下がっているような気がする旨、発言があった。

長内市長から、保健所を中心としたコロナ対策は実行しつつ、子ども達の輝いた姿を取り戻せるような事業や政策を行っていききたい旨、発言があった。

### 4. PTAのあり方、PTA大会WEB開催

仙崎会長代行から、インターネットではPTAのネガティブな言葉が掲載されているが、旧態依然のPTAの形が継続されているような学校PTAでは保護者間で悪いイメージを持つ悪循環になっている。これからは「強制・動員」等の古い体質を改め、PTAの必要性を訴えて、本来の「楽しく、参加できる人が運営する」PTAに一新していきたい旨、発言があった。

吉田会長から、任意団体だからこそできる、子どもも大人も喜んでもらえるPTA活動を推し進めていきたい。そういった活動の代表例をPTA大会で紹介している旨、発言があった。

併せて、今年度のPTA大会は2月5日（土）にWEBで開催し、PTA活動の成功事例や小中学校PTA役員のディスカッション等を発信して、各小中学校PTAと様々な情報を共有できるような内容の計画を検討している旨、説明があった。

長内市長から、コロナ禍で大変な時ではあるが、PTA役員自身が楽しめる様々な試みのPTA大会に期待している旨、発言があった。

## 5. 今後のPTA

長内市長から、今後も市とPTAが協力し合って、有意義で楽しい事業や活動を行いたい旨、挨拶があった。

吉田会長から、仙崎会長代行と伊関会計のように立候補して連P役員を引き受けていただけるような連P体制を理想と考えていて、今後も「楽しいPTA」をスローガンに掲げて新しいPTAの形を豊中市PTAから全国に発信したい旨、挨拶があった。





